

神奈川県建築士会女性委員会・防災委員会コラボセミナー（報告）
「建築士の日」一斉運動
防災・減災について考えよう～HUGから学ぶ～ 避難所運営ゲーム HUG 体験会
2014年6月28日(土)

1. 経緯

(1) 2012年度養成講座を受講した神奈川県建築士会女性委員会の浦委員長から白田・第7回養成講座リーダーへ防災活動に対する支援要請があり、それに応えて、昨年7月20日(土)に実施した建築士会ワークショップ「防災・減災について考えよう～HUGから学ぶ～」を全面支援、参加者から好評を得た。

《だるま支援》

講師：白田さん・中村(俊)さん 講評：荏本塾長 協力：池田さん・高松さん・成松さん

(2) 建築士会(東・防災委員長、浦・女性委員長)から「昨年の取組みを単発で終わらせるのではなく、企画を拡充して今年度も継続実施したい。」との要請があり(2014年初頭)、再度支援を合意。

《だるま支援》

講師・講評：白田さん・中村(俊)さん(荏本塾長は海外出張のため欠席) 協力：成松さん

2. ワークショップの概要

日時：2014年6月28日(土) 13:30～17:00

会場：横須賀市文化会館

主催：神奈川県建築士会女性委員会・防災委員会

共催：神奈川県建築士会横須賀支部、宮城県建築士会女性部会、防災塾・だるま

参加者：約60名(昨年度：39名)

- ・初めてHUGゲームを体験する方多数
- ・参加者の構成

建築士会：神奈川・横須賀支部、千葉(2名)、宮城(3名)

横須賀市民：自治会、行政、弁護士、小学生(2名)など多様な参加者

進行：13:30～13:40	開会あいさつ、講師紹介(建築士会)
13:40～14:10	「避難所運営とは」(講師：白田さん)
14:10～14:20	「HUGについて」(講師：中村さん)
14:20～15:20	6グループに分かれて避難所運営ゲーム HUG ・各グループにファシリテーター1名 ・自己紹介、役割分担(リーダー・記録・発表)～ゲーム開始
15:30～15:50	グループ発表と講評
16:00～16:50	宮城県建築士会女性部会講演 「宮城県における現状報告 震災からの復興＝自然との共生＝防災」
16:50～17:00	閉会あいさつ(建築士会)、集合写真

3. 全体のまとめ（白田さん）

セミナー当日、神奈川県建築士会の女性委員会の皆さん、防災委員会の皆さん、横須賀支部の皆さん、千葉県建築士会女性部会の方、宮城県建築士会女性部会3人の方、^{あべき}精木先生、横須賀市の皆さんなど約60名が参加したワークショップを開き、その中で横須賀市民の参加者の中に、ご夫婦とその母親の家族連れ、弁護士ご夫妻とお子さん家族、横須賀市の職員など様々な人たちの集う、今までにはない参加者の構成で始められた。

実際のHUGの実践では6グループに分かれ、前回同様に中村さんのリードで展開して行き、我々もその様子をほんの適度なアドバイスを交えながら観察し、真剣な参加者の進み具合に時を忘れて見ていた。

今回は講評をお願いしてあった荏本先生が、海外に出張のために参加できなくなり、講評をどう熟すのかと思っていたが、さすが中村さんは機転を利かせ、各グループの発表の段階で、各発表後、参加者の中から指名して講評をおきかえて進めて行き、その展開方法が次回に取り入れたら絶対面白いと感心した。

その後、宮城県建築士会女性部会の清本多恵子さんより、パワーポイントを使って宮城県の現状及び宮城県建築士会の活動が報告され、皆さん熱心に聞き入っていた。

コラボセミナー自体の采配は、中村さんが絶妙なタイミングを取り、その場の柔軟な展開等ほとんど事前打ち合わせなしの総合司会役まで熟し、我々も含め参加者の皆さんも、その能力の高さに恐れいった状況であった。

また、HUGのカードに新しい事案を追加作成したり、グループ発表では、それぞれのグループの判断や対応を落とし込んだ避難所の図面をスクリーンに投影して紹介しながら行うなど、中村さん・成松さんの工夫も好評だった。

終了後、何人かの参加者の中には、横須賀の地でこういう防災の研修会を開いてくれますかとのオフアがあり、中村さんは建築士会の浦さんを通して依頼して欲しいと答えていました。

いつも思うのですが、何かのきっかけで事が進み、いろいろな方と出会い巡り合い、その結果、自分の引き出しの数を増やして行き、さらに今後の活動に活かせる良いチャンスを失わないように心掛けて行くことが肝要であると、また学ぶこの日でした。

追記、終了後30名あまりで懇親会を開き、その人たちと交流し、有意義な一日でした。

最後に、神奈川県建築士会の企画・実践などに携わった皆様、お疲れ様でした。

4. 参加者からの感想

- ◆ 避難所運営というハード面に目が行きがちだが、やってくる様々な被災状況・年齢・健康状態などの避難者、次々と発生する新たな状況、入ってくる連絡にどう対応していくか、難問にどう対処するかなど、ソフト面での判断がいかに大切かに気づかされた、ゲームを超えて「目からうろこ」の有意義な体験だった。
- ◆ 臨機応変に判断し優先順位をつけて対応していく、必要なルール作りや役割分担は、などなど「イメージーション」を働かせて考える重要性を実感した。
- ◆ 今日の体験をここだけで終わらせず、仲間にも伝えたい。

5. セミナーの流れ

- ①「避難所運営とは」(白田さん) ②「HUGについて」(中村さん) ③アイスブレイキング



- ④ゲームの条件は？



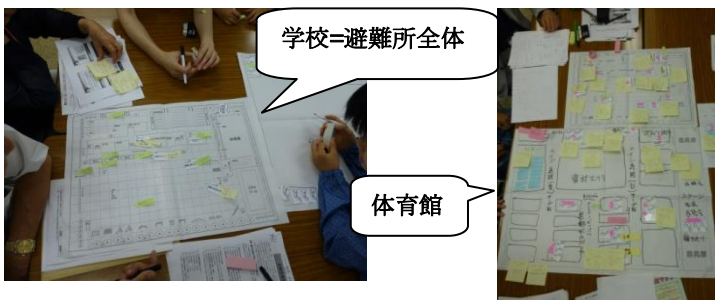
- ⑤ゲーム開始



- ⑥講師が巡回



- ⑦判断・対応等をカードや書き込みで図面に落としこむ



- ⑧子供からの目線・家族の視点



- ⑨ゲームに集中



- ⑩終了10分前です！



- ⑪各グループでまとめの論議



- ⑫グループ発表、落とし込んだ図面をスクリーンに投影



- ⑬ HUG まとめ(白田さん、浦さん)



⑭宮城県建築士会女性部会講演
「宮城県における現状報告：
震災からの復興＝自然との共生＝防災」



⑮だるまの協力へ記念品
(神奈川建築士会会長)



⑯閉会あいさつ
(東・防災委員長)



⑰終了後の集合写真 ～充実 笑顔 お疲れ様でした～



(記録：成松)